

## 平成27年度 第2回 総合教育会議

1 日 時：平成27年5月29日（金）16:20～17:05

2 場 所：県庁 講堂

3 出席者：三重県知事、三重県教育委員会（5名）

事務局＜戦略企画部＞

部長、副部長、ひとづくり政策総括監、戦略企画総務課長  
＜教育委員会事務局＞

副教育長、次長(教職員担当)兼総括市町教育支援・人事監、  
次長(学校教育担当)、次長(育成支援・社会教育担当)、

次長(研修担当)、教育総務課長、教育政策課長、保健体育課長

ほか

### 4 質 疑

#### ◆戦略企画部長

それでは、ただ今から、第2回総合教育会議を開催させていただきます。  
開催にあたり、知事からご挨拶をお願いいたします。

#### ●鈴木知事

第2回の総合教育会議ということで、今日は体力のお話をさせていただきたい  
と思います。体力につきましては、全国調査の結果、全国平均を下回る状況が続  
いていて、これは危機的な状況だと思っています。運動にしても勉強にしても、  
「やればできる」と子どもたちに思ってもらいたいですね。そういう環境を私たちが  
整えていくためにどういうふうにしていくのか。

三重県はこれから、平成30年のインターハイ、平成32年東京オリンピックの年  
には、全国中学校体育大会の一部、平成33年の国体と障害者スポーツ大会と、ス  
ポーツイヤーが続いていきます。インターハイは、今の中学生の子たちがターゲ  
ットですし、全国中学校体育大会は、今の小学生の子たちがターゲットになって  
きます。県全体のスポーツイヤーを迎える大変重要な局面だと思っていますが、  
基礎は学校における体力や運動がベースにあると思います。

ぜひ、忌憚のないご意見をいただき、子どもたちの体力が向上することによっ  
て、子どもたちが可能性を切り拓くために、また、子どもたちが夢や希望を実現  
していくために、自己肯定感を持ち、体力を持って前に進んでいけるようにした  
いという根本的な願いの下にやっていきたいと思っています。単にデータを上げる  
ということではなく、根本的な願いの中でぜひ体力向上に向けてのご意見を賜れば  
と思います。よろしく申し上げます。

#### ◆戦略企画部長

それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議題は、「子どもたちの体力向上」ということでご議論いただきます。

なお、本日の会議は公開で行いますことを申し添えます。

それでは、事務局から説明の後、意見交換に移りたいと思います。  
まず、事務局から説明をお願いします。

◆教育委員会事務局次長(育成支援・社会教育担当)

それでは、資料と参考資料をご覧くださいながらご説明申し上げます。資料1  
をご覧くださいいただけますでしょうか。

「1 趣旨」でございます。体力はすべての活動の源であります。子どもたちが体を動かす機会が少なくなってきたり、子どもたちの将来のために運動する機会の確保や体力の向上の取組が必要です。

「2 三重県の子どもたちの体力の現状」です。参考資料1ページ、体力合計点の推移をご覧ください。三重県の小学5年生と中学2年生の体力合計点の平均は、全国平均との差が縮小しつつありますが、下回っております。

参考資料の次のページ上段は、小学校5年生の種目別の状況を表示したレーダーチャートです。全国平均値を50として赤線で、三重県を青線で表示しております。これを見ますと、男女共、上体起こしが全国平均より低い状態であることがわかります。

下段の総合評価の割合は、体力合計点を評価基準に照らし合わせ、Aを上位としたEまでの5段階で示したものです。男女共A・B・Cの上位層が全国平均より少ない状況です。

資料1、3の(1)体力向上のための取組で、これまでの取組のところをご覧ください。①27年1月から4月にかけて、全小中学校の担当者に対し研修会を行い、「みえ子どもの元気アップシート」を活用して、結果分析の実施と「1学校1運動」の目標と実施計画の作成を進めました。

②26年度から調査時の留意事項をイラストで子どもたちにも分かりやすくまとめたワンポイントアドバイスを活用し、子どもたちが体力調査で自らの力をしっかり発揮できるよう努めております。

③23年度から小中学校に対し、体力調査の全学年での継続実施と子どもたちの成長記録の活用を促し始め、25年度からは、その活用促進を図るため、体力向上推進アドバイザーを配置し、徐々にその効果が表れ始めております。

参考資料15ページの「参考資料5」は体力調査の継続率の推移です。小学校を赤線で示しており、26年度に72.8%まで調査の継続を進めてまいりました。これにより、子どもたちが継続的に成長を実感し、達成感を得られる成長記録を活用する環境がようやく整ってまいりました。

次ページが、「わたしの成長記録」です。子どもたちの成長を合計点の伸びとして棒グラフですぐに分かるような形にしており、現在、面談時などで保護者にこの資料を渡していただくよう、学校に働きかけをしているところです。

23ページ「平成30年度全国高等学校総合体育大会について」、三重県を幹事県とします東海ブロックで、心身共に健全な青少年の育成、三重の魅力発信とおもてなしを目的に、県内8市町で15種目を開催いたします。会場となる市町と開催種目は、裏面の地図にお示ししておりますので、後ほどご覧ください。

去る5月15日に全国高等学校総合体育大会の準備委員会を設置し、平成30年を目指して計画の策定、広報などを進めてまいります。

資料1の裏面の2ページ(2)今後の取組です。引き続き、小学校に対し、市町教育委員会と連携し、指導主事やアドバイザーの学校訪問により、目標や実施計画の取組状況について指導助言をさせていただきます。また、朝食を食べ十分な睡眠をとる子どもたちの体力合計点が高いことから、学力向上県民運動で使用しますチェックシートに運動する項目を設け、家庭との連携を働きかけます。

平成30年の高校総体は、現在の中1から中3の子どもたちの活躍の場となります。日々の体力向上の取組と合わせ、30年の高校総体、32年の全中、そして、33年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会につなげるために、スポーツへの関心と大会開催時の気運の醸成も図ってまいります。

資料2、総合教育会議の論点でございます。(論点1)子どもたちの体力を向上するために、学校でどのように取り組むべきか。(論点2)家庭や地域において子どもたちの体力向上に対する気運を醸成するためには、どのような取組が必要か。とさせていただきます。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

#### ◆戦略企画部長

それでは、意見交換に移りたいと思います。順次、ご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○前田教育委員長

そもそも論みたいなのを申し上げるかもわかりませんが、まず1つ目は、このデータ、サンプリング方法が、他県あるいは全国と三重県とが同じスケールでやっているのかどうかというのが1つ。

もう1つは、三重県の子どもたちは元々基本的に運動能力が劣っているのかということ。小学校に入る以前から生まれながらに劣っているのかということが分からないんですね。

私は劣ってないと思っている、他県と比べて優秀な可能性のある子どもたちがいると思うんですが。もし、そうだとすると、学校なり、あるいは地域なり成長過程での指導は反省しなければいけないだろうと。そこのところはどうなのかという疑問を一つ持っています。

#### ◆教育委員会事務局次長(育成支援・社会教育担当)

まず、サンプリング方法につきましては、全国一律で、悉皆調査と抽出調査がございました。先ほどの参考資料の1ページをご覧くださいますと、この1ページの下段の中学2年生の表のところ、平成24年度の三重県の数値が全国値に近いところになっている、あるいは、女子は超えております。このときは20%程度の指定された抽出調査でした。22年も抽出調査でした。その意味で悉皆的に行われているのが、25、26年度でございますが、サンプリングの網のかけ方として異なりはないと感じます。

ワンポイントアドバイスのような資料につきましては、26年度から各学校に配っておりますが、それ以前の働きかけについては、少し後手に回っていたかと思うところはございます。

そして、もう1点、三重県の子どもたちは能力が劣っているかどうかという点につきましては、先ほどの中2の男女の合計点から見ますと、確実なバックデータはないですが、必ずしもそうではないかと考えております。

●鈴木知事

違うんです。今、前田委員長がおっしゃったのはそうではないんです。

1点目は、25年、26年は悉皆調査なので、他県と比べて小5中2のデータに齟齬はありませんということではいいんですが。

2点目は、学校に入る前の子どもたちの体力や運動能力について、何か分かるものがあるかないか。それがもしあるとするならば、それが全国と比べて低くないのに、学校に入ってから落ちているということは、学校や地域の取組に問題があるのではないかと、そのファクトをまず教えてというのが委員長の話。

◆教育委員会事務局次長(育成支援・社会教育担当)

失礼しました。学校入学前のデータについては持ち合わせておりません。

●鈴木知事

確かにこの資料、僕もこれでいいと言ってしまったのですが、学力のときの資料と比べると、クロス分析とか他県と比較しての取組がどうか、課題が分かりにくい、抽出されにくい、課題を浮き彫りにしにくい資料構成ですね。

段々良くなっています、今後、こんな取組をしますということしか書いてないので、これは私も少し反省をします。もし、議論の中で、資料にはないが、そういうファクトがあるなら、随時、補足してもらったらいいいと思います。

○森脇教育委員

3点ご指摘させていただきます。1点目は、論点の2にかかわることです。こういった調査は全国的になされていて、文科省も去年、全国調査をしています。そして、体力そのものは、全国的な傾向として85年がピークで、段々下がっている。その後、少し上がっていますが、全体としてそういう捉え方をします。

それから、運動をする子としない子が二極化している。おそらくそのことが体力の数値にも関係していると思います。一つお伺いしたいのですが、運動時間の三重県版データはあるのでしょうか。あれば、おそらく二極化していると思うんですが、二極化した図の下のこぶの子どもたちの問題というのは、ほとんど運動しないことです。中2の女の子の30%は運動をしないという全国調査のデータがあります。

どうしてそういう子どもたちが生まれているのかというと、おそらく生活習慣の大きな問題、つまり視聴覚機器への過度な接し方とかの問題が、学習時間にも影響を及ぼしていますが、おそらく運動時間にも影響を及ぼしているのではないかと考えられます。そういう意味で生活習慣全体のチェックと見直しが必要だと

思いますし、小学校の場合は、朝食摂取との相関関係が出ています。生活そのものを立て直していくというか、そういう雰囲気の違い方をしたら失礼かもしれませんが、生活そのものの立て直しまで見据えて施策を良くしていかなければならないということが1点。

2点目は、就学前の幼稚園・保育所との連携が非常に大事だということです。この時期をゴールデンエイジと言っています。脳神経などが発達していく時期、つまり運動能力を獲得できる時期というのは、幼少期と学童期にまたがっているんですね。その時期に体力テストに特化したやり方は、かえって効果がないそうですが、いろんな遊び、運動、文化、仲間と一緒に楽しく運動する取組を、幼稚園・保育所などと共に小学校が幼小連携の中でやっていく必要がある。これが2点目です。

3点目は、学校のPDCAに乗せていくときに、めあての提示や振り返りが行われてないという学力面と同じような問題が体育系の教科でも起きている現状を見ると、授業改善も一つの課題です。もちろん学校が継続的に取り組むことも課題で、その点については、体力テストの実施率が増えてきているのはいい状況だと思いますが、授業面での対策を打たないといけないんじゃないかと思います。

#### ◆教育委員会事務局次長(育成支援・社会教育担当)

今、ご指摘いただきました学校のPDCAの関係ですが、全国平均値との比較の中で見まして、学校全体で体力向上に対する目標を設定している割合を分析したことがございます。その結果をみると、全国では小学校の8割が目標を設定しておりましたが、三重県では56.6%でございました。それが分かりましたので、遅ればせながら、急ぎよこの1月から各学校で目標設定の取組を始めました。

また、体力テストについても、三重県は6年間継続している割合が低かったもので、これから上げていかねばならないと取り組んでいるところです。

PDCAの部分については、ようやく緒についたところです。

そして、就学前との関係ですが、残念ながら私どもで就学前と連携した取組をしていません。

#### ●鈴木知事

1点目、運動時間や生活習慣は、僕の記憶によれば、文科省の全国抽出なので県別のものは出てないんじゃないかと思いますが、どうですか。

#### ◆保健体育課長

1週間の運動時間の例示ですが、小学5年生の男子では、1週間の運動時間が60分未満の子どもは、全国は6.5%、三重県は7.5%です。60分未満の中でも0分の子どもが三重県の場合47%もいます。これが小学校男子の平均です。中学校にいきますと、二極化が進み、中学2年生の男子では、全国は6.9%で、三重県は5.4%、そして、その5.4%の中でも0分が73%にも及びます。ですから、中学校になってくると、運動をやる層と全くやらない層が顕著に出てきています。

#### ●鈴木知事

女子も男子と比べて運動時間が少ないのではなかったですか。

◆保健体育課長

1週間の運動時間が60分未満の中学2年生女子の例示をしますと、全国では21.8%、三重県は18.9%。その中でも0分というのが三重県は68.9%です。どちらかといえば、女子のほうが運動しない子が中学校になってくると多くなってきます。

●鈴木知事

先ほど前田委員長と森脇先生におっしゃっていただいた、幼児教育の段階の体力、運動能力は、施策としてまだ取り組めてないのですが、確かに幼稚園協会や保育園協会にいた人は、かなり問題意識が高いので、これから幼児教育をいろいろ考えていく中では、重要な要素になってくるかと思います。確かにそのファクトがないと、逆に取組さえもできにくいということなので、どういう方法があるか考えてみないといけないと思いますね。

○柏木教育委員

論点1と論点2にまたがる話ですが、学校もやることがいっぱいある中で、私は学校としてどう取り組んでいくかというのは、家庭を巻き込む努力をするべきだと思います。私は常々、体力に関しても学校として宿題を出せと言っています。そうしたら、先ほどのデータの0分は0%になるはずですよ。なので、中学生だろうが小学生だろうが、学校が家庭に対してアプローチをすることが必要な気がします。

ここに書いてあるような上体起こしとか長座体前屈は、家の中でも十分できます。さらに、上体起こしだったら、保護者とのコミュニケーションもとれるので一石二鳥です。

三重県でも体育の苦手な先生がたくさんいるので、体育の授業を専科の先生に任せて担任がしないことが多々あります。そうすると、体育の先生は、体育の宿題を出しにくい。ですから、校長のマネジメントの一環で、体力も子どもたちに必要なもので、漢字の練習と並行して、例えばペットボトルをぐっと握って握力を強くするなどの取組を、学校を挙げてしたらどうかと思います。

先日も教育委員会の定例会の後でお話をしている中で、教育長が率先して体力向上の取組を頑張っている市町は体力が高いと聞きました。そういう気づきで、子どもたちに大事な取組が何かを提案していくことが必要じゃないかと思っています。

●鈴木知事

経験則でいいので、網羅的にデータがなくてもいいので、宿題的なことをしている市町はありますか。僕が小さいころは、3年生や4年生、5年生は体の柔軟性が重要だからということで、風呂を上がった前屈30回やれという宿題が兵庫県は出たような気がしますね。

◆保健体育課長

授業以外での取組の例示では、市町を挙げて縄跳び検定をやっています。縄跳びが何回飛べたら何級という検定をします。それを子どもたちに示すと、家に帰って縄跳びを保護者とやろうというような動きがあるということを学校訪問などで市町の教育委員会を回って聞いています。

それと、宿題とまでは言いませんが、ある学校が、保護者の理解を得て集団下校の時間を遅くしました。帰る時間を延長させて遊ぶ時間を設定したという取組もお聞きしています。

●鈴木知事

他県ではどうですか。福井県とかは体力の宿題などはやっていないですか。あまり聞いたことがないですか。

◆保健体育課長

福井の調査では、学校の取組として、グーパー体操をするという計画書を見せていただきましたが、宿題というところまでは把握していません。

●鈴木知事

でも、大事な視点ですよ。あと、上体起こしは腹筋と背筋のバランスが重要なので、腹筋と背筋のバランスを崩すと猫背になって、今後の健康にも大きな影響を及ぼすし、偏頭痛なども起こしやすいですね。健康管理面からも上体起こしの点数が低いのは、なかなか深刻ですね。

○岩崎教育委員

今のお話に絡んで、私、この資料を拝見したときに、上体起こしの指導で、「とにかく30秒間、あきらめないで」と書いてありますが、これってあきらめてしまうパターンが多いんですか。というのは、全国学力・学習状況調査でも途中であきらめてしまうというのがあったので、それとの類推をしてしまって。そこを教えていただきたいというのが1点。

それから、昨日、たまたま東員町の教育長さんとお会いして話をしていたら、学力でも体力でも、教育長さんがしっかりと目標を出して、それで各校で取り組んでいるということでした。とくに縄跳びがいいということをおっしゃっていました。ですから、目標管理や学校現場への徹底の話は、各市町の教育委員会の話ですが、参考にすべきものがあると思いました。

それから、少し今日の議題から外れるかという気はしますが、とても気になるのは、個人の体力の話が中心になっていますが、スポーツで何かをするときに、体力のない子どもや疾患で走れない子どもがいて、いろんな技能の差が出てきますね。競技力の向上もあるけれど、そういう子どもたちも含んでみんなでチームプレーをするのもスポーツのすごいところだし、それで社会性が養われていきますね。個人ベースで体力のことを語ると、そういういい部分がなかなか出てこない気がしています。一方では競技スポーツとしての高みを目指す大会はこれからどんどんある中で、体力が劣っている子も役割が果たせるような学校現場でのス

ポーツや体力向上の面も見ておく必要があるような気がします。いただいた資料を見てみると、どうしても個人レベルの体力の向上という話が中心にならざるを得ないところは理解していますが、スポーツには、個人の体力向上にとどまらない、いい部分があるのではないかということをおきたいと思います。

●鈴木知事

今の岩崎委員のと、関連だったら一緒に言ってもらって。では、先に。

◆保健体育課長

まず、一つ目の、あきらめるのかということですが、これは例えば体力テストの点だけでやらせていくとあきらめていくと思います。

参考資料6「わたしの成長記録」を学校で使ってくださいと示しましたので、これで子どもが次はもう一つ頑張ろうかという目標を持たせることができます。そのために、先生の「最後まであきらめずに」という励ましの言葉が書いてあります。また、子どもたちが自己実現の中で成長の記録の中身を見て、10段階まで後、自分は2回すれば8になったではないかというのを励みにする仕掛けです。子どもはそこだけをやれというなら、あきらめて終わってしまうかも知れません。そこは現実的にはわかりませんが、大人の教師の仕掛けとしての部分です。

後半のほうで言っていた仲間づくりのところでは、私も小学校の体育の授業を見に行ったときに、バスケットボールとかポートボールをやっていました。2～3回でパスしなければいけない、誰もが触らなければいけないというルールで授業構成をしていました。そうすることで運動が苦手な子もそこに参加していくとか、それから、フラッグフットボールというものを取り上げている学校もありまして、それは、前へ出る行動がフットボールやラグビーによく似たルールなので、それぞれが役割を持たなきゃいけない。授業ではそういう取組をしながら引き上げていくことを進めています。

○前田教育委員長

現場で一生懸命やっというらっしゃる皆さんには、気の毒でぶしつけなことを申し上げるかも知れません。三重県の体力のこの位置づけが、憂慮すべき危機的状況という認識を現場の皆さんがいつ持ち始めたのかと思います。

こちらの参考資料の15ページの小学校のデータを見ますと、平成24年はまだそうでもないですが、25、26年とビュッと上がり始めた。これは継続実施ということなんですよ。

素直な疑問ですが、なぜ、すべての市町の小学校等が危機感を持ち始めたのになぜもっと上がらないのかと思います。例えば、これは労働強化になるとか、大変というような何か超えなければいけないハードルがあるのでしょうか。教育委員長であったり知事であったりの組織長が、この状況は大変だからこれをもっと上げようという発信があったら、組織としては、単年度内に90何%、100%近くにしなければいけないと思います。それぞれの学校は、いろいろ障害や課題もあるでしょうが、そこを乗り越えて取り組むのは、一つの仕事であろうと思います。



が、何かできない障害があるんですか。

何が言いたいかというと、危機的、これが憂慮すべき状態だということを現場の人たちまで持つことが第一番目だと思います。もう一つ、個人的には、学力を上げるより体力のほうが上げやすいと思います。なぜなら、数値目標や種目がはっきりしている。自分との挑戦でもあるということで、保護者や地域の人たちにも分かりやすい数値目標設定ができると思います。そういう意味では上げやすいのではないかと。

例えば、私が明日から腹筋10回しようか15回にしようかという目標設定は、割と上げやすいと思います。個人表もここに付けていただいているみたいですが、挑戦すべき課題が見やすくフォローアップしやすいことから言うと、共通のテーマで同じところに向かっていきやすいのではないかと思います。

#### ◆保健体育課長

現場が体力テストに取り組むかどうかは、はっきり言えば体力の大切さを現場の先生が気づくのが遅かったということです。つまり、学校質問紙の中でも体育の授業が楽しいという意味は、わぁーと遊んでいる延長上で捉えて授業を構築していたのかということです。例えばそこに、数値目標をクリアしたときの楽しさや、鉄棒ができたときの楽しさといった、克服的な楽しさを見逃していたということが、現場の先生方にあるような気がします。

今、いろんなところで研修会を進め、目標としてはこんなことを目指そう、まずは体力テストに取り組みましょうという合意形成ができましたので、体力テストの結果がピュッと上がるとは思いませんが、徐々に上がることを期待したいと思います。

#### ●鈴木知事

今の委員長がおっしゃった中で抜けているのは、体力テストを実施することに現場で何かハードルがあるんですか。あるとすれば何ですか。

#### ○山口教育長

市町の教育長さんや小中の校長会で話を聞くと、器具がないとよく言われます。器具は市教委が集めて貸し出しをしてやればいいではないかという話をしますが、私は、そういう器具ではない、やる気だと思っております。三重県教育ビジョンは22年度に作っておりますが、このときも継続実施率が非常に悪いです。この22年度から県教委もほとんど意識改革をできなかった。僕も含めて、結局は気合いを持って現場に立ち向かえなかったことが一番大きいと思います。

25年度からビュッと小学校の体力テストの実施率が上がってきたというのは、しっかりやらないとだめだという話を、担当レベル、校長レベルを呼んで研修会をやって、例えば、鳥羽市や名張市に体育科教員の教育長さんがおりますので、そういう人を講師に、先生方、あるいは校長らにしっかりとってもらうことをやってきたので、数字は上がりつつあるのかと思います。それをどのように結果に結びつけるかということについては、時間や空間、環境、仲間、「三間」とい

いますが、そういうことを教員、あるいはリーダー、管理職がしっかりと把握してやらないと、結果には結びつかないと思っております。

教育ビジョンを作ってきたながら、三重県教育委員会もしっかりとした手を打っていなかったということは、本当に反省しなければならない。小中や市町にばかり言うのではなく、こうした方がいいのではないかとということを資料1「これまでの取組」で25、26、27年度に手を打っておりますので、今後に期待をしたいと思います。個人的にはなるべく早い形で成果が出ればと。学力より成果が出るのが早いというのは私も同感で、説得力もあると思います。勉強でも体力が要ることだと思っておりますので、そのあたりもしっかりと言っていきたいと思っております。

○柏木教育委員

先ほどの宿題にも関連しますが、21ページのチェックシートは年に3回されているということですが、これの春休みバージョンとして、体力に特化したチェックシートで、春休みを利用して家庭で子どもたちに体力を付けようということをしてみてはどうでしょうか。多分、年に3回もチェックシートに取り組んでいるので、保護者もこれを書くことに慣れつつあると思います。学習を付けてもいいんですが、体力のほうが上がりやすいというお話もあるので、春休みバージョンとして体力に特化した項目のチェックシートを作って、家庭で頑張ろうというのをしたらどうかと具体的に思いました。

○岩崎教育委員

森脇委員からも幼稚園との接続の話がありましたが、参考資料6の「私の成長記録」の部分は、この種目というわけにはいかんでしょうが、幼稚園のときに種目は違うが保護者が書くみたいなものを作っていけないんだろうかという気がしていました。「私の成長記録」をベースに、母子手帳の引継ぎで、今度は私の成長記録だよというようなものを作るのは可能ではないかという気がしますが、そこはどうでしょうか。

○森脇教育委員

先ほども少し申しましたが、例えば握力、上体起こしなどに特化してやり出すと、かえって総合的運動能力を押さえてしまうということもあります。

体力テストを継続的にやっているかどうかは、これは人間ドックでいえば受診したかどうか、ということですね。その後に課題が出てきて、その課題に対してどういう取組を、しかも継続的にしたかということが結果に結びつくのであって、そこに重点を置いてやらないといけないかと思いました。

●鈴木知事

教育長、それ以外も含めて何かありますか。

○山口教育長

それ以外というより、就学前に多様な運動を体験した子は、運動能力も学力も高いと言われておりますので、学校教育だけでなく、保育所も含めて子ども家庭

局と連携をして力を入れていかないといけないと思います。よろしくお願ひします。

#### ●鈴木知事

今日はありがとうございました。今日いただいたご意見を整理すると、一つは、先ほど教育長からもあったように、就学前の部分ももっと視野に入れた取組が必要なのではないかというのが1点。

2点目は、僕の感想的なところもありますが、この体力の部分については、目標を設定しやすく、かつ、アクションも取りやすい性質のものであるにもかかわらず、ファクトが少ないので、目標達成のための課題抽出の材料が少ない。委員長の言葉を借りれば、ビュッと上がりやすいという性質のもの、確かに上体起こしが28回だったのが30回できるとか、非常に目標として設定しやすいし、そのために何をすればいいかというのも分かりやすい話だと思うので、体力に関するいろんなクロス分析も含めたファクトが若干足りないかと思います。これは28年度予算に向けて、どのようなファクト収集をしていくことが重要かというのを議論して、調査をしていかなければいけないかというのは、一つの課題かと思いました。

3つ目は、目標として明確にしやすいので、家族や地域を巻き込むにも、分かりやすい巻き込み方をしたほうがいいのではないかというご意見だったと思います。それが例えば、チェックシートだったり、宿題の方法だったり、目標の設定だったりという、巻き込む方法と論点はこの2つですが、分かりやすい巻き込み方がいいのではないか。さらに、もっと積極的に巻き込んでいくというのが整理だったかと思います。

あとは、学校におけるPDC Aの危機認識の部分において、大分憂慮レベルが上がっているとするならば、PDC Aがこれから更に回っていくことを期待しつつ、学校のPDC Aをもう少ししっかり回さないといけないというあたりが重要なポイントかと思いました。

ちなみに、1985年に小学校5年生だったのは、昭和49年生まれの私ですが、あまり昭和49年生まれが体力があるような実感はないですが、いずれにしても体力は目標設定しやすい部分であると思います。様々なファクトの深掘りや分析、あるいは他県の取組の分析とか若干弱い部分もあると思いましたので、そういう部分も補強しながら、取組につなげていくことも大事だと思います。

この総合教育会議における一つ重要なテーマであり、これは大綱や教育ビジョンを作っていく中で、体力は重要なファクターですので、今日は駆け足の議論になりましたが、引き続き、様々なご意見を賜って進めていきたいと思います。

#### ◆戦略企画部長

限られた時間でしたが、本当に貴重なご意見をありがとうございました。

次回の総合教育会議ですが、日程調整をさせていただいて、6月中には開催をさせていただきたいと思いますので、次回も引き続きよろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。

以上